

園芸教室のお知らせ

くお部屋を春の花で飾ってみませんか

時 三月一日(土) 一〇時〜一二時

所 敷戸校区公民館二階大ホール

講師 佐藤洋子 氏 (佐藤洋子花店)

内容 フラワーアレンジメント (作品は持ち帰り)

受講料 五〇〇円 (申込時に納めてください)

申込先 敷戸校区公民館 (三月五日〆切)

今月のレシピ ちりめん (じゃこ) 御飯

材料

米 3合 (洗って20分以上おく)
A ちりめん 50g (さっと洗って水切りする)
油揚げ大1枚 (油抜きして小さく切る)
薄口しょうゆ 大3、濃口しょうゆ 大1、
酒 大2、 塩 少量

作り方

① Aを全部合わせて味つけする (煮る)

② 米と一緒に炊き込む

*好みで米1合ほどを、もち米にしてもよい

レシピで一句

家出する ちりめんじゃこも 春風も 坪内勲典

里の暮らし (21)

この2年間、私がこれまで畑仕事をしながら思ったことや感じたことを季節の移り変わりに合わせて紹介してきたが、私の担当は今回が終わりとなる。最初の頃は、ありふれた農村風景を歳時記のように書いて来たが、直近の2回は、畑仕事を始めた契機や水害など現実的な事も取り上げてきた。それは連載の終わりに不可欠なテーマだと思ったからである。

最終回に当たり、里の在り様について私が一番気になることを書いて見たい。今日、この集落のような里の暮らしがいつまで続けられるかを直視せざるを得ない時期に来ている。私は古希を迎えたばかりだが、この集落の多くは90歳近い夫婦や単身者だ。先祖の時代から連綿と続けられてきた営みにより、野山や田畑などの豊かな自然環境が守り育てられており、是非、次の世代に引き継いで欲しいものである。

最近、社会の動きが大きく変化しそうな状況になっており、若い都市生活者が子育てに相応しい住環境、安らぎや人との触れ合いのある生活を求めて移住する傾向にあると聞く。そうしたことに期待し、将来にわたり里の暮らしが持続可能となることを願わずにいられない。

最後に、公民館だよりに掲載させて下さった館長ほか関係の皆様、関心を寄せて戴いた皆様に感謝申し上げます。

お知らせ①

お知らせ②

非接触式体温検知器を本館玄関に設置しました。月水金の日中のみ使用できます。感染拡大防止にお役立てください。

今月号で「里の暮らし」は終了です。敷戸南町の宮崎さん、二年間執筆、大変ありがとうございました。五月号からは敷戸台の麻生さんが担当してくださいませ。お楽しみに。